

英語科学習指導案

平成29年 月 日 () 第 校時 () 年 組 指導者

I 単元 2020東京にオリンピックをむかえよう！

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

他者に伝わるように、自ら進んで英語を用いて道案内で尋ねたり答えたりしようとする態度

①知識・技能

道案内で尋ねたり答えたりする際に用いる英語の音声や文字、英語表現、文構造、言語の働きについての知識
道案内において活用できる基礎的な技能

②思考力・判断力・表現力等

英語表現を選んだり組み合わせたりし、英語を用いて道案内で尋ねたり答えたりする力

(2) 言語事項 ※指導と評価の計画参照

(3) 単元の価値

本単元は、"What do you want to watch?"や"Turn right."等の英語表現を用いて、東京オリンピック・パラリンピックで観たい種目や行きたい会場について、友達やALTに尋ねたり答えたりして道案内をする学習である。その価値は以下のとおりである。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催される。日頃からオリンピック・パラリンピックの話題がテレビ等でも取り上げられていて、子どもたちは自国で開催されるオリンピック・パラリンピックにも興味をもっている。

本単元で扱う"What do you want to ~?"や"Where is the ~?"といった疑問文や、"I like ~."等の自らの気持ちを表す英語表現は、既習の英語表現であり、子どもたちは用いる英語表現に対する見通しをもつことができる。さらに、"Turn right."や"Go straight."等の英語表現は道案内をする上で欠かせない英語表現であり、"~ at the second corner"等の場所を表す英語表現を組み合わせる道案内をすることができる。

オリンピック・パラリンピック会場で道案内をする場面を設定することは、観光客と迎える人に分かれ、観たい種目を尋ねることから行きたい会場まで案内する自然なコミュニケーションを図ることにつながる。また、相手を行きたい会場まで案内する必要感が生まれ、正確に伝えたり、相手に合わせて繰り返し伝えたりする等、他者に配慮してコミュニケーションを図ることが求められる。

世界規模のスポーツの祭典である、オリンピック・パラリンピックの種目や東京で行われることを知ることは、世界の人々とのつながりを意識することができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「Junior High School Life」において、「I want to study hard.」等の英語表現を用いて、中学校生活で行いたいことを尋ねたり答えたりする学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、6年「This is me.」において、「I want to go to France. Because I want to watch soccer games.」や「I like ~.」等の英語表現を用いて、友達やALTの行きたい場所や好きな物、スポーツを尋ね合い、自分のことについて紹介をする学習に取り組んできた。この学習の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① "baseball"や"soccer"等のスポーツを表す英語の音声、英語表現を理解し発音できるようになってきている。このような子どもたちが、「sitting volleyball」や"wheelchair basketball"等のパラリンピックのスポーツを表す英語の音声、英語表現を理解し発音することができるように、Crazy Monkeyゲームをして繰り返し英語の音声を聞いたり発音したりする活動を設定する。
- ② "What do you like?"や"What do you play?"等の英語表現を選んだり組み合わせたりし、友達の好きな物やスポーツについて尋ねたり答えたりすることができるようになってきている。このような子どもたちが、「What do you want to watch?»や"Where is the ~ ?"等の英語表現を選んだり組み合わせたりし、友達やALTが観たい種目や行きたい会場を尋ねたり答えたりすることができるように、問題解決についての目標やコミュニケーションポイントを設定する。
- ③ 他者に伝わるように声の大きさや速さに気を付けて、自ら進んで英語を用いて自分の好きな物やスポーツについて紹介しようとするようになってきている。このような子どもたちが、他者に伝わるように声の大きさや速さに気を付けて、自ら進んで友達やALTに観たい種目や行きたい会場について尋ねたり答えたりしようとするように、自らの表現の成果と課題をTryシートに記述する機会を毎時間設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい コミュニケーションポイントを視点として、道案内を繰り返し行うことを通して、「Turn ~ at the ~ corner.」を用いた動きや場所を指示する英語表現を選んだり組み合わせたりし、道案内をすることができる。
- 2 準備 フラッシュカード 道案内ボード
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・ "Turn left."は「左に曲がって」で"Turn right."は「右に曲がって」だったな。 ・ "Turn right, go straight, go straight, …." "go straight."を何度も繰り返して言うのは面倒だな。何かいい	○前時までの道案内をする際の自らの表現についての課題から、本時解決したいことを想起できるように、前時のTryシートを確認するよう促す。 ○"Go straight."等の動きを指示する英語表現を繰り返し伝える大変さに気付くことができるように、同じ英語表現を繰り返し伝えないと行きたい場所に到着できないゲームをする場を設定し、気付いたこと

言い方はないかな。

・"～ at the ～ corner."とさえばいいのだね。さっきの時は、「Turn right at the forth corner.」だ。

・道案内をする時には、相手に伝わる速さで英語が抜けないように注意する必要があるのだな。

2 場所を指示する英語表現を取り込む。

・「2つ目の角を曲がって」は、"～ at the second corner." だね。

3 道案内をする。

・野球を観るために、東京ドームに行きたいのだね。友達に何て伝えてあげればいいのか。

・さっきは"Go straight."を何回も言ったけれど、行きたい場所までの道順を考えると"Turn left at the second corner."と一言で伝えてあげればたどり着けそうだな。

・"One more, please."と言われてしまったよ。行きたい会場に着けなかったようだな。もう少しゆっくり伝えてみれば、会場までの道順を聞き取ってくれるかな。

・今度は"Thank you."と言われたよ。伝わってよかったな。相手に合わせて伝える速さを考えてあげるといいみたいだ。他の人にも伝わる速さを考えながら道案内をしてみたいな。

・反応を見ながら伝えるとよいのだな。違う友達にも、そのようなことを考えてあげられるといいのだな。

4 本時のまとめをする。

・動きや場所を指示する英語を選んだり組み合わせたりしたら、何度も同じことを言わない道案内が出来たな。

・次回は、今日の学習を生かして、たくさんさんの友達に道案内をしたいな。

を問いかける。

○本時の見通しをもてるように、動きと場所を指示する英語表現を用いたモデルをALTと演示し、前時との違いを問いかける。

○コミュニケーションで大切なことを意識できるように、「伝わる速さ」「正確な英語の文」のコミュニケーションポイントを提示する。

○"～ at the second corner."等の場所を指示する英語表現を知ることができるように、フラッシュカードを用いて場所を指示する英語表現を提示し、ALTの後に続いて発音するよう促す。

○動きや場所の指示についてよりよい表現で伝えられるように、道案内ボードを用いて道案内をする場を設定し、コミュニケーションポイントを意識して道案内をするよう助言する。

○場所を指示する英語表現を選んだり、組み合わせ方を考えたりできるように、スタートから遠い場所に建物を配置すると共に、道順を想定するよう促す。

○上手く道案内ができない子どもには、動きや場所を指示する英語表現を確認できるように、同じ目的地への道案内をするペアで相談するよう助言する。

○道案内が正確に伝わったかを確認することができるように、建物が描かれていない道案内ボードを用いて目的地に行く場を設定し、確認後に道案内をした人の元にその結果を報告するよう促す。

○相手に分かりやすい伝え方を明確にできるように、反応を確認しながら伝わる速さで伝えている子ども同士のモデルを提示し、表現のよさを問いかける。

評価項目

動きや場所を指示する英語表現を選んだり組み合わせたりし、行きたい会場までの道案内をしている。
<行動②>

○道案内をした際の自らの表現の振り返りができるように、めあてやコミュニケーションポイントを基にTryシートに成果と課題を記述するよう促す。

○次時の活動への見通しをもてるように、本時の英語表現を用いて道案内することができたことを賞賛すると共に、次時の活動内容を問いかける。